

令和4年度 東京都立葛飾商業高等学校経営報告（全日制課程）

本校全日制課程は、昭和37年（1962年）に東京都立金町高等学校に全日制課程商業科が新設され、校名を東京都立葛飾商業高等学校と変更して開校、以来60年の伝統に支えられた、東京東部に位置した葛飾区の商業高校である。平成4年度より情報処理科を設置し、高度情報化社会に貢献できる人材の育成に努め、平成30年度から、商業科・情報処理科をビジネス科に改編、ビジネスに関する実学を中心とした様々な教育活動を通し、思考力、判断力、表現力を磨き、グローバル社会で求められる能力を身に付ける教育を推進。勉学にスポーツにと文武両道を推進する地域に根ざした教育を実践して卒業生1万8千名余りの有能な人材を輩出し、各方面で活躍している。本校は商業の専門高校としての使命を果たすため、商業に関する専門的知識と技術を習得させ、人間性を磨き、社会を支える一員であることの自覚のもとに、望ましい勤労観・職業観を養い、自己実現に主体的・創造的に取り組む人間を育成していく。

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 〔評価基準 A：満足 B：概ね満足 C：もう一步〕 ※（ ）内の数値は令和3年実績 |
|------|---|

1 学習指導

今年度の取組目標

- ①良質な授業の提供と教科マネジメントの充実を図る。
- ②生徒の創造力を育み、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い思考力・判断力・表現力等を育成する。
- ③教科マネジメントを確立し、3年間を見通した教科指導の在り方を発展させ、組織的な補講を含めた指導体制の強化を図る。
- ④ビジネス教育を推進するとともに検定資格の取得率の向上を図る。
- ⑤家庭における学習時間の拡充を図る。
- ⑥持続可能な社会づくりに向けた教育（SDGs）を推進する。
- ⑦ICTを活用するとともに、Society 5.0の社会に対応するための教育に取り組む。

| 具体的な方策 | 取組と成果 | 評価 |
|--|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に対応した学校経営上の課題について検討し、新規事業の提案を行う。 ・すべての教科においてアクティブ・ラーニングを推進、学習成果発表会等の発表を通じて言語活動の充実を図る。 ・生徒の健康増進や体力向上を図るとともに、運動やスポーツに親しみ、心身の育成を推進する。 ・読書の時間の実施や推薦図書を選定等図書館の活性化を図り、読書活動を推進する。また、教材や調査研究の素材として、「新聞」を積極的に活用する。 ・Microsoft Teams等を活用したオンライン授業の指導計画・教材開発・学習評価等について研究を進める。 ・1年次において簿記、珠算・電卓、情報処理、ビジネス文書検定3級取得100%を目指し、2年次からは生徒の興味・関心、進路希望等に応じて、さらに各種1級の高度な資格取得を実現する。 ・地域の商店街や企業等産業界との連携や外部人材の活用により、研究発表、商品開発、空き店舗を利用した店舗運営、起業家精神の育成等のビジネス教育を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応した学校経営上の課題について横断的に検討し、教育活動の改善や提案等を行った。ビジネス科のカリキュラムを中心に、令和7年までの道筋を立てていく。 ・前半は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、アクティブ・ラーニングには積極的に取り組めなかったが、主体的に学習に取り組みせ、言語活動の充実を図った。 ・生徒の健康増進や体力向上を図り、運動やスポーツに親しみ、心身の調和的な育成を推進した。 ・読書活動の推進を図り、教材や調査研究の素材として、「新聞」を活用する教科もあった。 ・Microsoft Teams等を活用したオンライン授業の実施に向け、校内研修を実施し、授業計画・指導計画・教材開発・学習評価等について研究を進めた。 ・1年次においては簿記、珠算・電卓、情報処理検定において、放課後等の補習を行ったが、3級合格100%は達成できなかった。2・3年生はさらに上位級を目指して取り組み、全商1級3種目合格者が3名でた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のなか、地或連携は10回程度行った。できなかった。また、企業等産業界との連携や外部人材の活用により、研究発表、商品開発に活かすことができた。今年も空き店舗を利用した店舗運営をとおして、起業精神の育成等ビジネス教育の推進を図った。 | A |

| | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス科3年間の検証を行い、カリキュラム・マネジメント、グランドデザインを点検し改善し、令和4年度以降の教育課程について編成・構築を行う。 ・アクティブ・ラーニングを意識した授業改善の推進を継続し、ルーブリックを用いた評価を活用して指導と評価の一体化を図る。 ・学習成績に関して、評価に示すペーパーテストの割合は6割程度とし、残り4割程度は、授業態度・出欠・提出物・アクティブ・ラーニングへの取り組み等とする。検定試験を実施する科目については、可否に関わらずその結果を加点要素として加える。 ・検定資格の取得につながる教科・科目については、生徒の能力に応じた適正なレベルを受験させ、組織的計画的な指導によって合格率の向上を図る。 ・オンライン個別学習の稼働率を向上させ、基礎学力の向上を図り、就職・進学対策に活用する。 ・英語については、JET・ALTとのTTでは、オールイングリッシュを意識した授業を目指して取り組む。習熟度別授業・少人数授業、多読、英紙新聞の活用を図るとともに、英語検定を活用して英語力の向上を図る。 ・英語科と商業科が連携して、EBPC(イヴリッツ)・ビズ初プラ・コンテスト入賞を目指す。 ・教科指導・特別活動において、調査・研究活動で図書館を積極的に活用することや「読書の時間」を設定することにより、不読者率を減少させる。また、教材や調査研究の素材として「新聞」を積極的に活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス科の3年間の検証を行い、カリキュラム・マネジメント、グランドデザインを点検し、令和4年度以降の教育課程について編成・構築を行った。 ・アクティブ・ラーニングは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、特に前半は推進できなかった。ルーブリック評価については1年生より順次指導と評価の一体化を図っていく。 ・学習成績に関して、評価に示すペーパーテストの割合は6割程度とし、残り4割程度は、授業態度・出欠・提出物・アクティブ・ラーニングへの取り組み等とした。検定試験を実施する科目については、可否に関わらずその結果を加点要素として加えた。 ・検定資格の取得につながる教科・科目については、生徒の能力に応じた適正なレベルを受験させ、組織的計画的な指導により合格率の向上を図ったが思うように言っていない部分もある。 ・英語については、JET・ALTとのTTで、オールイングリッシュを意識した授業を目指して取り組んだ。習熟度別授業・少人数授業、多読、英紙新聞の活用を図るとともに、英語検定を活用して英語力の向上を図り、実用英検2級に1名、準2級に2名合格した。 ・1年「ビジネス基礎」で「東京のビジネス」、2年「ビジネス・アイデア」において、企業連携(商業教育コンソーシアム東京による大日本印刷(株))により、実践的な学習に取り組み、ビジネス教育の充実を図った。 ・学校全体としての組織的な授業相互参観や研究授業は実施できなかったが、一人3回の相互授業参観をお願いした。 ・各種検定・大会・コンテスト等への応募・参加を促し、生徒の潜在能力の発見・開花に結び付け、自己肯定感の醸成につとめた。今年度は、日商簿記検定に2名が合格。税に関する高校生の作文では、葛飾税務署長賞を受賞する等した。 ・店舗運営実習(京成小岩駅前)では、都立足立特別支援学校との連携を推進し、ビジネスに関する協働学習と生徒の相互理解に取り組むことができた。 ・EBPC(イヴリッツ)・ビズ初プラ・コンテストに出場したが、入賞することはできなかった。 ・教科指導・特別活動において、調査・研究活動で図書館を積極的に活用し、「読書の時間」を設定することにより、不読者率の減少に努力した。また、教材や調査研究の素材として「新聞」を活用できた。 | B |
|--|--|---|

| |
|---|
| <p>次年度以降の課題と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の実施に際し、適切に運用されているか検証し、不適切な箇所は改善していく。 ・アフターコロナを見据えて、引き続きアクティブ・ラーニングに取り組み、主体的に学習に取り組む姿勢を育み、基礎学力の定着、学力向上に努め、言語活動の充実につなげる。 ・部活動等を通して生徒の心身の育成を推進する。 ・読書活動の推進を図り、「新聞」を活用した授業を全教科で実施する。 ・オンライン個別学習を活用し、今後も通常時と同等の学習環境を提供する。Teamsの活用を図るため、デジタルサポーターを活用し、校内研修の更なる充実を図る。 ・朝学習や放課後等の補習を充実させ、1年生は全商検定3級合格100%を目指す。2・3年生は興味関心・能力に応じたレベルの級を受験させ、自己実現に向けて取り組ませる。 ・実学としてのビジネス教育を充実させるため、地域連携や外部人材をより活用し、商品開発や店舗販売実習等の更なる充実を図り、起業家精神の育成・ビジネス教育の推進に取り組む。 ・導入2年目の一人一台端末を活用した授業を全教科で実施し、家庭学習の推進も図る。そのためにも、年3回の授業相互参観や校内研修の充実を図り、情報機器の活用技術向上に努める。 ・2年目の学力向上研究校(校内寺子屋)として、外部人材を活用し、生徒の基礎学力の定着を図る。 |
|---|

2 生活指導・健康づくり

今年度の取組目標

- ①生命尊重・こころの育成に取り組み、安心・安全な学校生活を確保し、いじめ・暴力行為・自殺等の未然防止に努める。
- ②規範意識の醸成を図り、基本的な生活習慣を確立させ、ボランティア精神の醸成と社会人として必要な資質能力を育成する。
- ③教職員が足並みをそろえ、交通安全指導・遅刻指導・身だしなみ・挨拶・マナー・情報モラル指導等の徹底を図る。
- ④ SCや外部機関との連携を強化し、教育相談体制と支援内容および特別支援教育の理解と啓発を図る。
- ⑤生徒の健康状況の把握に努め、保健指導の充実と健康管理の徹底を図る。
- ⑥生徒の健康づくり、体力向上、安全管理、環境美化を徹底する。

| 具体的な方策 | 取組と成果 | 評価 |
|--|--|----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・頭髪指導・服装指導・授業規律指導・挨拶指導・遅刻指導・マナー指導を通して、社会人として必要な規律・規範意識の育成を図るとともに、道徳教育の充実を図る。 ・安全教育プログラムの活用を図り、交通安全指導、薬物乱用防止教育、セーフティ教室等において生徒の健全育成を推進する。 ・いじめの未然防止に努め、特にSNSの健全な利用について通年で注意喚起する。 ・「生命尊重」に関する教育を推進し、講演会、授業、ホームルーム等において、通年で取り組む。 ・養護教諭、SC、学校医、外部専門機関等との連携を深め、教育相談、特別支援教育に関する校内組織を活性化し、一人ひとりの生徒に対応した支援の充実を図る。 ・生徒の情報交換会を年3回実施し、全教員が生徒の状況について共通理解を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・頭髪指導・服装指導・授業規律指導・挨拶指導・遅刻指導・マナー指導を通して、社会人として必要な規律・規範意識の育成を図り、道徳教育の充実を図った。 ・薬物乱用防止教室、セーフティ教室を実施し、事前の知識を得ることで、生徒の安全を担保するとともに、交通マナーの育成を図った。 ・いじめの未然防止に努め、SNSの健全な利用について通年で注意喚起をした、毎学期のいじめについてのアンケートを実施し、いじめの未然防止に努めた。 ・授業、ホームルーム等をとおして、生命尊重を尊ぶ教育を通年で推進した。 ・養護教諭、SC、学校医、外部専門機関等との連携を深め、教育相談、特別支援教育に関する校内組織を活用し、一人ひとりの生徒に対応した支援の充実を図った。 ・全教員による生徒の情報交換会を年2回実施し、生徒情報の共有化に努め、個に応じた教育環境を整えた。 | A |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「葛商生活指導統一基準」に基づいて、基本的な生活習慣、身だしなみ、授業規律、自転車通学マナー、SNSの使い方等の規範意識のさらなる定着を図る。 ・特別支援委員会の定着を図り、毎学期に「気になる生徒の調査」を行い、情報交換会を実施して、気になる生徒に関する情報を共有し、統一した指導に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「葛商生活指導統一基準」に基づいて、基本的な生活習慣、身だしなみ、授業規律、自転車通学マナー、SNSの使い方等の規範意識のさらなる定着を図った。 ・特別支援委員会は、全体で2回、個別で1回実施した。「気になる生徒の調査」を行い、情報交換会を実施して、当該生徒に関する情報を共有し、統一した指導に取り組んだ。また、家庭、担任、養護教諭、スクールカウンセラー等の連携を図り、生徒の心のケアに取り組んだ。 | B |
| 次年度以降の課題と対応 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・全職員で組織的に生活指導に取り組み、規範意識や道徳心の育成を更に図る。 ・生徒や社会の状況を鑑み、適切な指導に全職員で取り組む。 ・セーフティ教室やホームルーム活動・授業等をとおして、生徒の健全育成を図る。 自転車安全運転指導推進校として、自転車安全利用の意識向上に努め、自転車事故の減少を図る。 ・SNSの適切な利用法を徹底させるとともに、毎学期のいじめアンケートを活用し、いじめの未然防止に努める。 特に1年生は、入学時にSNSの適切な利用法を指導・徹底させる。 ・生命尊重を尊ぶ教育をセーフティ教室やホームルーム等で継続実施する。 ・スクールカウンセラー、外部専門機関等と連携を深め、生徒の個に応じた支援を組織的に行い、特別支援の更なる充実を図る。 ・特別支援委員会を充実させ、特別支援に関する意識の高揚・知識の充実を図るとともに、生徒情報の共有化に努め、個に応じた教育環境を整える。 | | |

3 進路指導

今年度の取組目標

- ①3年間を見通した組織的・計画的なキャリア教育のシステムを構築する。
- ②大学入試改革に対応した商業高校からの大学受験指導の改善を図る。
- ③多様な進学希望に対応した進学指導マネジメントシステムを構築する。
- ④生徒の入学時から卒業までの成績推移等の個別データを全教員で共有し、担任、教科担任、部活動顧問等、それぞれの関わりの中できめ細やかな丁寧な指導を行う。

| 具体的な方策 | 取組と成果 | 評価 |
|--|--|----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様な進路希望に対応する組織体制を確立し、1年生から計画的にキャリア教育を推進する。 ・2年生のインターンシップの実施について、組織的な強化を図る。 ・大学入試に対応した指導体制を確立し、大学短大、公務員希望者への指導を強化する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様な進路希望に対応する組織体制を確立し、1年生から計画的にキャリア教育を推進した。 ・2年生のインターンシップでは、会社から苦情が出るなど悪い面もあった。 ・大学入試に対応した指導体制を確立し、多様な受験方法を活用して、希望大学に進学した。 | A |
| <ul style="list-style-type: none"> ・総力を挙げて、3年生の進路実現を図る。 ・キャリア・パスポートについて適正に取り組む。 ・全教職員による企業見学・会社訪問を実施し、新規就職先やインターンシップ受入先の開拓に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン個別学習の推進を図ったが、基礎学力の定着、就職・大学短大・専門学校・公務員の受験対策の活用までには至っていない。 ・3年生の進路決定は希望者100%を継続することができた。 ・キャリア・パスポートについては、積極的な活用ができていない。 ・インターンシップ時に全教職員による企業見学・会社訪問を実施した。インターンシップは実施したが課題が残った。 | B |
| 次年度以降の課題と対応 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様な進路希望に対応するための組織体制を確立し、1年生から計画的にキャリア教育の見える化を推進する。 ・インターンシップを1学年の11月に実施し、科目選択や早期の進路決定に役立てていく。 ・大学入試に関する情報から適切な指導体制を整えるとともに、進学・就職・公務員希望者への個別指導を行い、生徒の進路実現を図る。 | | |

4 特別活動

今年度の取組目標

- ①持続可能な社会づくりに向けた教育（SDGs）を推進する。
- ②学校行事や部活動の一層の活性化を図り、生徒を育成する。
- ③地域貢献活動の充実を図り、生徒の成長を期すとともに地域に根差した学校づくりを推進する。
- ④平和教育・環境教育を推進する。
- ⑤運動部・文化部への加入率を向上させ、部活動や委員会活動の活力向上を図る。
- ⑥読書活動を推進する。
- ⑦次世代リーダー育成道場や東京英語村等を活用し、グローバル人材の育成を図る。

| 具体的な方策 | 取組と成果 | 評価 |
|---|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック教育の推進を図る取り組みを実施する。 ・地域貢献活動の一環として、トライ&チャレンジふれあい月間推進事業、小中高夢の架け橋推進事業、東京都教育の日の取り組みの拡充を図る。 ・青少年赤十字（JRC）加盟校として、ボランティア活動への参加を促し、生徒に自己有用感を持たせ、社会貢献意識の向上を図る。 ・「総合的な探究の時間」等を活用し、自己の在り方・生き方と関連づけてキャリア教育、道徳教育、平和教育、環境教育に関する知識を身に付けさせ、社会貢献活動の自覚を深め | <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック教育の推進を図る取り組みを実施した。 ・地域貢献活動・ボランティア活動は感染対策に努めながら、10回程度行うことができた。 ・「総合的な探究の時間」等を活用し、自己の在り方・生き方と関連づけて、キャリア教育、道徳教育、平和教育、環境教育に関する知識を身に付けさせ、社会貢献活動の自覚を深めるとともに、生徒の「生きる力」を育んだ。 | B |

| | | |
|--|---|---|
| <p>るとともに、生徒の「生きる力」を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年「ビジネス基礎」、2年「ビジネス・アイデア」について、企業連携（商業教育コンソーシアム東京による大日本印刷（株））や高大連携（千葉商科大学商経学部）および地域連携等の実践的な学習等によりビジネス教育の充実を図る。 ・各種検定・大会・コンテスト等への応募・参加を促し、生徒の潜在能力の発見・開花に結び付け自信と誇りを持たせる。 ・店舗運営実習（京成小岩駅前）や商品開発等を通じて、都立足立特別支援学校との連携を推進し、ビジネスに関する協働学習と生徒の相互理解に取り組む。 ・オリンピック・パラリンピック教育を推進し、異文化交流に取り組む。 ・青少年赤十字（JRC）を活用し、ボランティア精神の醸成と活動を推進する。 ・様々な機会を通じて組織的にSDGsに関わる取り組みを推進し、生徒の意識啓発と社会参加を推進する。 ・地域の商店街や町会、中学校、保育園、児童館等との地域連携活動を推進し、地域貢献、人材育成に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前半は積極的な取り組みはできなかったが、後半は、JRC同好会や生徒会中心に、青少年赤十字（JRC）を活用し、ボランティア精神の醸成と活動に取り組んだ。 ・授業を中心にSDGsに関わる取り組みを実施し、生徒の意識啓発に努めた。 ・感染症拡大防止のため、後半から地域貢献活動に10回ほど取り組むことができた。 ・オリンピック・パラリンピック教育を推進し、異文化交流に取り組んだ。 ・昨年度中止になっていた、全日制課程創立60周年記念事業を10月に行うことができた。 | B |
| 次年度以降の課題と対応 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナを見据えて、地域貢献活動を再開させ、豊かな心の育成を図るとともに、本校の広報活動に務める。 ・青少年赤十字加盟校として、ボランティアの積極的な参加を促し、社会貢献意識の向上を図る。 ・「総合的な探究の時間」等を活用し、キャリア教育、道徳教育、平和教育、環境教育等を実施し、社会貢献活動、生きる力の醸成を図る。 | | |

5 募集・広報活動

今年度の取組目標

- ①入学者選抜における応募倍率の向上を図る。
- ②開かれた学校の推進。
- ③募集・広報活動の充実。

| 具体的な方策 | 取組と成果 | 評価 |
|---|--|----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのリニューアルに取り組み、積極的に情報発信を行う。 ・授業公開週間（各学期）、学校説明会、中学校・学習塾訪問等の実施を工夫し、保護者、地域、中学生等に対して効果的な広報活動に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを随時更新し、ホームページの充実を図り、情報発信を積極的に行い、ビジネス科で唯一中進対1倍を超えることができた。 ・授業公開、学校説明会や中学校・学習塾訪問等をとおして、中学生、保護者、地域等に学校の情報を公開することができた。 | A |
| <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミの活用、学習塾および中学校の強化対策地区を設定する等、更なる効果的・効率的・組織的な広報・募集活動に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・募集対策にあり方を見直し活動に取り組んだ結果、入試応募倍率の改善につながった。 | A |
| 次年度以降の課題と対応 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを随時更新するとともに、ホームページの充実を図り、情報発信を積極的に行う。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応した、授業公開、学校説明会、中学校・学習塾訪問等を実施し、中学生、保護者、地域等に情報を公開し、本校応募に繋げる。 | | |

6 学校経営・組織体制

今年度の取組目標

- ①カリキュラム・マネジメントを確立し、学習指導要領に対応した教育課程の検討を継続する。
- ②働き方改革、ライフ・ワーク・バランスの推進に取り組む。
- ③高い倫理意識をもった教職員集団と法規法令の遵守を目指す。
- ④経営企画室と一体となった組織体制を確立し、行政系職員から見た教育活動等への提言を行う。
- ⑤自律経営推進予算・学校徴収金会計について適正な計画を立案し、計画的・効率的な予算執行と会計処理を行う。
- ⑥施設設備の定期的な安全点検・安全管理及び迅速な修繕の徹底を図る。

| 具体的な方策 | 取組と成果 | 評価 |
|--|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。 ・サービス事故ゼロを達成し、生徒・保護者の信頼を確立。特に体罰や不適切な指導を絶対に生じさせない。 ・経営企画室と一体となった体制づくりを進め、来校者等への丁寧な接遇、危機対応力の向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画的・効率的な職務遂行を徹底し、ライフ・ワークバランスの実現を図った。 ・サービス事故防止研修を毎学期に1回以上実施し、サービス事故はゼロであった。また、体罰等の不適切な指導もゼロであった。 ・経営企画室と連携を図り、来校者等への丁寧な接遇、危機対応力の向上を図った。 ・全国商業高等学校協会、東京都商業教育研究会の運営・活動に積極的に参画した。 | A |
| <ul style="list-style-type: none"> ・教科・経験の枠を超えた5～6名のグループによる「授業相互参観」と研究授業を実施し、授業力の向上と良質な教材作成に取り組む。 ・全日制課程創立60周年記念事業について準備に取り組む。 ・業務分担の適正化、会議の時間短縮等業務の効率化を図り、時間外勤務の軽減に取り組み、教職員の在校時間を縮減する。 ・サービス事故・個人情報紛失事故・体罰や不適切な指導の根絶に向けた校内研修を学期に1回以上実施し、サービス事故をゼロにする。 ・自律経営推進予算を第二四半期までに70%以上執行する。備品については、100%執行し、自律経営推進予算のセンター執行率を70%以上にする。 ・節電等の省エネルギー・資源リサイクル化を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・業務分担の適正化、会議の時間短縮等業務の効率化を図り、時間外勤務の軽減に取り組み、教職員の在校時間を縮減した。一部の教員は在校時間を縮減することができなかった。 ・サービス事故・個人情報紛失事故・体罰や不適切な指導の根絶に向けた校内研修を学期に1回以上実施し、サービス事故をゼロにした。 ・自律経営推進予算は適正執行し、備品については100%執行、自律経営推進予算の一般需用費センター執行率は52.75%であった。 ・都の施策「H T T」に則り、節電・資源リサイクル化の推進を図った。 | B |
| 次年度以降の課題と対応 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・計画的・効率的な職務遂行を徹底し、ライフ・ワークバランスの促進を図る。 ・サービス事故防止研修を毎学期に1回以上実施し、サービス事故および体罰等の不適切な指導をゼロとする。 ・経営企画室と連携を図り、来校者等への丁寧な接遇、危機対応力の向上を図る。 ・全国商業高等学校協会、東京都商業教育研究会の運営・活動に積極的に参画し、商業教育の充実を図るとともに、本校の教育活動に還元する。 | | |

【重点目標達成のための具体的な数値目標】

| 数値目標 | 具体的な数値目標 | 成果 ()内の数値は令和3年実績 |
|----------------|---------------------------------------|--|
| 重点目標達成のための数値目標 | ①基礎的検定（3級）合格率 （簿記・情報処理・電卓・商経等）100% | 全商簿記 62%（54.5%） 全商情報処理 74%（76.3%） 全商電卓 64%（83%） 全商商経 41%（55.4%） |
| | ②簿記検定1級合格率 | 40%以上 43% |
| | ③情報処理検定1級合格率 | 40%以上 20% |
| | ④未読者率 | 20%以下 6.6%（5.4%） |
| | ⑤進路決定率 | 100% 98.9%（100%） |
| | ⑥就職試験1社目での合格率 | 80%以上 84.6%（88.3%） |
| | ⑦部活動加入率（全校生徒） | 75%以上 (同好会含む) 81%（68%） |
| | ⑧生徒の学校満足度 | 75%以上 78.4%（70.1%） |
| | ⑨地域貢献活動 | 年間15回以上 約10回 |
| | ⑩遅刻回数 | 1日平均10人以内 3.8人（2.2人） |
| | ⑪特別指導件数 | 5件以内 15件（18件） |
| | ⑫自転車による交通事故件数 | 3件以内 2件 |
| | ⑬転退学者数 | 10人以内 20人（9人） |
| | ⑭推薦応募倍率 | 1.2倍以上 1.36（1.15） |
| | ⑮学力検査応募倍率 | 1.15倍以上 1.14（0.85） |
| | ⑯店舗運営開店回数 | 年間10回以上 11回 |